

## 視覚リハビリテーション指導者養成機関としての 世界の大学の現状

日本ライトハウス養成部  
田邊 正明\*

### I. はじめに

国際ロービジョン学会は3年に1回開催される学際的な学会でVision2020として2020年に開催される予定であったが、コロナウイルス感染症のため2年延期となり、2022年7月5日から4日間アイルランド、ダブリン（図1）での現地開催とともにオンラインでも開催されることとなった。ヨーロッパ諸国は2022年7月の時点で入国審査においてPCR検査などの諸条件はなくなっていたため、ヨーロッパ諸国からの参加者がほとんどで、入国審査にPCR検査を課していた日本、中国からはオンラインでの参加がほとんどであった。

今回の発表のなかで特にAcademic Program Worldwideのパネルディスカッションが興味深かったため、その内容を紹介したい。というのも日本における視覚リハビリテーション指導者の養成は日本ライトハウスと国立障害者リハビリテーションセンター学院が行っていて、大学での養成課程は存在しない。しかし、今後設立の可能性はどうなっていくのか



図1. アイルランド、ダブリン  
(Google mapより引用)

\*たなべただあき 日本ライトハウス養成部  
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中二丁目4番37号 TEL: 06-6961-5521

を知る上でも現在の大学教育の状況を知ることは重要と思われるからである。

視覚リハビリテーションに携わる職種は学際的な協力が必要であり、多岐にわたるのが特徴である。その種類は北アメリカ地域においては、眼科領域では眼疾患の治療に携わる Ophthalmologist (眼科専門医) と屈折矯正を中心に診断する Optometrist (検眼士)、脳損傷などの訓練に主に携わりながら視覚障害者の日常生活動作訓練にかかわる専門家である Occupational Therapist (作業療法士: 以下 OT と略す) が主なものである。そのほかにアメリカの Academy for Certification of Vision Rehabilitation and Education Professionals (視覚リハビリテーションと教育専門職認定協会: 以下 ACVREP と略す) が認定している資格として白杖の訓練に携わる Certified Orientation & Mobility Specialist (歩行訓練士: 以下 COMS と略す)、拡大のための補助具を紹介する Certified Low Vision Therapist (ロービジョンセラピスト: 以下 CLVT と略す)、点字訓練などを担当する Certified Vision Rehabilitation Therapist (視覚リハビリテーションセラピスト: 以下 CVRT と略す)、音声付きコンピュータなどの訓練を担当する Certified Assistive Technology Instructional Specialist (情報機器専門家: 以下 CATIS と略す) などがある。

視覚リハビリテーションの専門教育課程を設けている大学は少なく、北アメリカにある Salus 大学、Alabama (UAB) 大学、Montreal 大学、Massachusetts 大学 Boston 校 (UMass) の担当者からその成り立ちやカリキュラム構成が今回紹介された。また、アメリカのロービジョンサービスにおける Ophthalmologist の役割や、Waterloo 大学からは Optometrist が関わっている現状の説明があった。

## II. パネリスト紹介とディスカッション要旨

パネリストは北アメリカの大学や研究機関に所属している Kerry Lueders (Low Vision Rehabilitation Program, Salus University, Elkins Park, USA)、Beth Barstow (Department of Occupational Therapy, University of Alabama at Birmingham, Birmingham, USA)、Olga Overbury (School

of Optometry, Universite de Montreal, Montreal, Canada)、Laula Bozeman (School for Global Inclusion & Social Development, UMass Boston, Boston, USA)、Stanley Woo (School of Optometry & Vision Science, University of Waterloo, Waterloo, Canada)、Donald C. Fletcher (Envision Low Vision Rehabilitation, Wichita, Kansas, USA)、の6名であった(写真1)。

それぞれ大学の担当者の説明、眼科医の意見を要約したい。

### 1. Salus 大学、Kerry Lueders

Salus 大学はアメリカの Pennsylvania 州 Philadelphia に位置し、Pennsylvania College of Optometry (以下 PCO と略す) が母体となって視覚リハビリテーションに特化して進歩してきた大学である。その歴史の概略は以下のとおりである。

1919年にPCOとして設立され、1978年にDr. William Feinbloomがロービジョンリハビリテーションを始めるためにWilliam Feinbloom Vision Rehabilitation Center (WFVRC)を設立した。1983年にはロービジョンリハビリテーションプログラムが完成し、1984年に視覚障害の学生教育が始まった。1991年になるとOrientation and Mobility (歩行訓練: 以下 O&M と略す) 教育が開始され、1992年には視覚リハビリテーション教育が確立されること

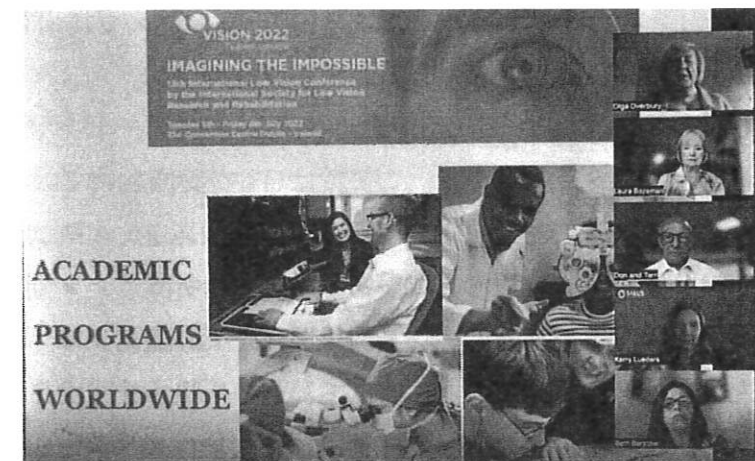


写真1. パネルディスカッションの画面

となった。2001年には指導者の教育のためのオンライン教育が開始され、2008年、PCOからSalus大学に名称変更された。ちなみに、Salusは安全と福祉のローマの神である。2020年にはAssociation for the Education and Rehabilitation of the Blind and Visually Impaired (視覚障害教育リハビリテーション協会：以下AERと略す)からロービジョンリハビリテーションプログラムの単位認定を受けた。350時間の実習が在郷軍人病院、リハビリテーション組織、開業医に受け入れられている。

現在の大学はOptometristの養成学部であるPennsylvania College of Optometry (オプトメトリ学部)、リハビリテーション全般を網羅するCollege of Health Science, Education and Rehabilitation (健康科学リハビリテーション学部)で構成されている。College of Health Science, Education and Rehabilitationの中にはBlindness and Low Vision Studies Programs(視覚障害学科)があり、専攻分野はLow Vision Rehabilitation (ロービジョンリハビリテーション専攻)、O&M (歩行訓練専攻)、Teacher of the Visually Impaired (視覚障害児教育専攻)、VRT (視覚リハビリテーションセラピー専攻)に分かれている。そのほかOT program (作業療法士学科)、Speech Language Pathology Program (言語聴覚士学科)、Physician Assistant Study Program (医療補助員学科)、Orthotics & Prosthetics (義肢装具学科)、Biomedicine Program (生物医学学科)がある。

Salus大学は国際ロービジョン学会に数多くの演題を絶えず提出している。

## 2. Alabama大学Birmingham校、Beth Barstow

University of Alabama at Birmingham (UAB)にはロービジョンリハビリテーション準修士プログラムがある。ここではOTが養成されている。

まずOTとは何か？その定義を見てみると、「OTは、人々やコミュニティと協力して、自分がしたい、必要がある、または行うことが期待されている作業に従事する能力を高めるか、作業への関与をより適切にサポートするために作業または環境を変更することによって、この成果を達成する。」とある。

では、なぜOTなのだろうか？その背景には視覚リハビリテーションで働く有資格の専門家の不足が挙げられるが、OTは多様な人々と働ける幅広い教育

を受けており、視覚障害者に対応できる付加的なトレーニングを受けていて、保険適用を受けられる有資格者であることが大きな要因であろう。

UABのロービジョン準修士プログラムはAlabamaのEyesight財団から資金援助を受けて設立されている。そしてOT部門の医療専門学校となり、2004年に最初の入学者を受け入れた。450名の卒業者のうち、448名がOT、1名はOT協会、1名はCOMSの出身であった。現在ではカリキュラムの99%はオンライン教育となっている。入学基準は大学院への入学できることが応募要件となっていて、学士号を所持していることが必要で、願書、成績証明書の提出のためには受験費用として25ドルが必要である。そのほか小論文、非英語圏の応募者はTOEFL、アメリカからの応募であればOT資格が必要となっている。

カリキュラムの概要は15単位で構成されていてその内容は、

- ・秋：ロービジョンリハビリテーションⅠ (3単位)
- ・春：ロービジョンリハビリテーションⅡ (補助具) (3単位)
- ・秋：ロービジョンリハビリテーションⅢ (自動車運転) (3単位)
- ・春：脳損傷による視覚障害者の処方 (3単位)
- ・夏：ロービジョンリハビリテーションⅣ (3単位)

のようになっている。

## 3. Montreal大学、Olga Overbury

L'universite de Montrealにおけるロービジョン臨床医の訓練では2000年にオプトメトリ校でO&M訓練のプログラムを立ち上げた。2004年にVRTプログラムが始まった。それらは卒後専門医プログラムで提供され、修士課程で15単位の選択がある。専門医制度の代わりに修士プログラムにし、ロービジョンの専門を加えた。フランス語と英語でプログラムは提供され、実習制度があって1学期中に地元で1週間に1回、最後に3カ月あり、12ヶ所のケベックのリハビリテーション機関や、そのほかカナダ、アメリカ、アイルランドにおいて行われる。プログラムはAERからロービジョンや歩行訓練の単位が認定されている。卒業証明はACVREPから得られる。

## 4. Massachusetts大学Boston校、Laula Bozeman

University of Massachusetts Boston (UMass)におけるLVTの認定は

次のように行われた。まず、アメリカにおける視覚に関する認定の歴史を見ると、1990年代にAERがアメリカでLVTの認定を、2000年にACVREPがLVT、COMS、VRT、CATISの認定をした。しかし、視覚リハビリテーションの専門家が不足しており、LVTを育てるための大学人事が必要で、Massachusetts大学が準備を依頼されたのである。子供と大人の違いを考えてプログラムは作られ、はじめはNew Englandで、そして国内、国際的な要求に応えられるように計画された。

卒業証明を得るためには5つのコースがあり、①眼の解剖と疾病、②臨床と機能的な評価法、③ロービジョンへの介入と対処法、④応用ロービジョンセミナーと実習前指導、⑤ロービジョン実習、である。それぞれの内容は次の通りである。①解剖と疾病：眼の解剖学、関連した病気について、②臨床と機能的な評価法：視力、視野など臨床と医学、疾病、近見視力、眼の動き、色覚の機能的な評価、③ロービジョンへの介入と対処法：非光学的補助具、光学的補助具、拡大電子補助具、④応用ロービジョンセミナーと実習前指導：オンラインでのケーススタディと200時間の実習前指導、⑤ロービジョン実習：有資格LVTのスーパービジョンのもと150時間の実習。これまでにプエルトリコ、ミクロネシア、台湾の卒業生も輩出している。台湾の受講者はアメリカのロービジョンクリニックに勤務していた方で英語に堪能であったため、オンラインでの講義、認定試験ともに全て英語で行われた。

#### 5. ロービジョンリハビリテーションを支援するためのオプトメトリの多くの道筋、Stanley Woo

北アメリカにおけるオプトメトリ大学では、Doctor of Optometry (オプトメトリドクター：以下ODと略す)の学位授与や医師の研修を行っている。能力的には入門コースと応用コースに分けられる。American Academy of Optometry (アメリカオプトメトリ協会：AAO)ではロービジョン部門の研究者、ロービジョンの専門医制度プログラムが用意されている。

北アメリカのオプトメトリ大学では学士号取得後4年間でODを取得できる。また様々な専門訓練で眼の健康が保持されている。ロービジョンリハビリテーションにおける専門家の連携は、Optometrist、Ophthalmologist、視能訓練士、

OT、CATIS、COMS、社会福祉士、教員などで行われている。それらは開業医、病院、大学のセンターなどに設置されている。

入門レベルの能力は、Association of Schools and Colleges of Optometry (全米オプトメトリ大学協会：ASCO)のロービジョンの教育者が2006年に特別な興味をもち、専門能力と学習目標の発展と標準化をおこなった。それは軽度および中度視覚障害者のプライマリケア診療のための基本的なロービジョンリハビリテーション原理と臨床方略や、機能的な目標の例としては小さな文字を読んだり、テレビを見たり、眩しさを減少する方略を探索するための改善された能力であった。2012年になると20の能力が挙げられ、例えば、疫学、心理社会的問題、機能的視覚の喪失の診断(視力、視野、屈折、コントラスト感度)、ロービジョン用補助具・情報機器の処方、運転、介護計画といったものがあげられた。

北アメリカのオプトメトリ大学における研修のカテゴリは視覚リハビリテーションであり、“眼や神経学的な状態の認識に関連する話題や臨床に貢献し、それらは視覚、機能や方略の管理の識別に影響する。そこには治療、補助具、訓練、専門職間の協力が含まれており、日常生活の自立を促進する。”とされている。強調される分野は①ロービジョンリハビリテーション、②ビジョンセラピーと視覚リハビリテーション：眼球運動、調節、両眼視や知覚システム、残存視力、妥協した視野などの機能不全、③脳損傷リハビリテーション：評価、脳損傷や神経系の疾病を伴う患者の管理と学際的リハビリテーション。

応用レベルの能力は、入門レベルをもとに重度視覚障害とより複雑な解決策を含み、生涯教育と継続的な専門性の発展の機会となる。2016年には20個の能力が挙げられた。例えば①周辺視野の欠損—視野拡大システム、訓練、COMSとの共同管理、②複雑なロービジョン補助具—障害の原因に基づいて計画、処方、訓練を含む適切な解決、例えば2重焦点望遠眼鏡、③脳損傷のケアや運転リハビリテーションを含む、④臨床の管理と保険適用による還付などである。

American Academy of Optometry (アメリカオプトメトリ協会)では研究員(Fellowship)にロービジョン部門があり、ロービジョンリハビリテーショ



ンの分野における患者のケアや専門性の発展に寄与している。また専門医制度では臨床、教育、研究において、事例報告、筆記試験、眼疾患の試験、臨床試験、口頭試験がある。卒後研修では継続的な専門研修がアメリカ、カナダの協会で行われている。

まとめると世界的にロービジョンリハビリテーションの需要は高まっており、学際的な共同が必要で、多様な教育の機会が必要とされている。

#### 6. ロービジョンサービスにおける Ophthalmologist の役割、Donald C. Fletcher

アメリカでは Ophthalmologist が 19,000 人、Optometrist が 37,000 人存在している。ロービジョンの人口は視覚障害者全体で 1200 万人とされているが、800 万人は未矯正によるもので、その人数を差し引くと 400 万人が矯正後のロービジョン患者人口数となり、アメリカでは完全矯正が全国民にいきわたっていない現実が指摘された。眼疾患の割合は加齢性黄斑部変性症 (80%)、糖尿病性網膜症 (8%)、緑内障 (7%) の順になっている。伝統的なロービジョンクリニックの診断は、①視力測定、②不足している解像度の計算、③計算結果から妥当な拡大鏡の紹介、④拡大鏡の販売と続き、再び診断に訪れることはないというのが普通であった。今後は整形外科などのようなリハビリテーションモデルで、多様な専門家によるチームアプローチ、患者参加型、残存視力の理解、補助具を使った練習を組み入れていくことが必要である。

### Ⅲ. 日本における展望

日本では視覚リハビリテーション、視覚障害リハビリテーション、眼科リハビリテーション、ロービジョンケア、眼科ケア、生活訓練などさまざまな用語がある。日本ライトハウスでは施設の名称に「視覚障害リハビリテーション」を使っているが、本稿では Vision Rehabilitation の訳語として「視覚リハビリテーション」を用いている。

欧米では視覚リハビリテーションにかかわっている人達には Optometrist が多く、国際ロービジョン学会の参加者も Optometrist が多い。ワークショップでは Optometrist の生涯教育の単位として認められているものが多くあるが、

日本からの参加者は眼科医、視能訓練士、大学教員などであって、Optometrist は日本に存在しない資格のため、生涯教育の単位にはならない。Optometrist の仕事の内容は資格制度を持っている国によっても違いがあり、養成校はほとんどアメリカ、イギリスにあることから、イギリス連邦に属する国などが中心となっているのが現状である。

日本で視覚リハビリテーションの現場に従事しているものは眼科、福祉、教育などさまざまな職種に所属していて、統一された資格は存在しない。視覚障害者、ロービジョン者に対応するための訓練はさまざまな分野におけるチームアプローチが必要で、ひとくくりにして考えることは難しいことも指導者の養成の難しいところであるが、北アメリカ地域における養成方法を参考にして今後日本における指導者養成方法の再考も必要になってきているのではないだろうか。